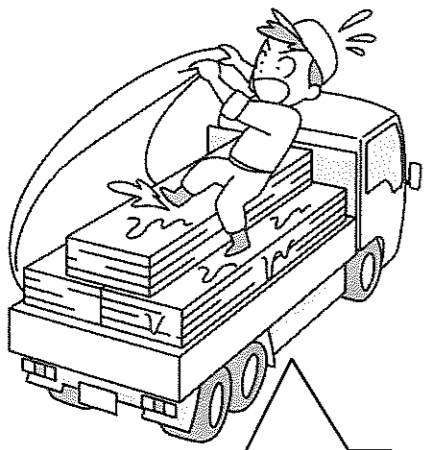


高さ1メートルからの転落で、 頭蓋骨砕ける可能性も！



荷台の清掃、積荷のシート
掛けなど、荷台に上がっての
作業は細心の注意を！

厚生労働省によると、2018年に労災認定された死傷者約12万7000人のうち、最も多いのが「転倒」(3万1833人)、次が「墜落・転落」(2万1221人)となっています。「転倒」は50代以上が68%を占めています。転倒が起りやすいのは、加齢による筋力の衰えだけでなく、姿勢を保つための様々な感覚が衰えてくるからだそうです。

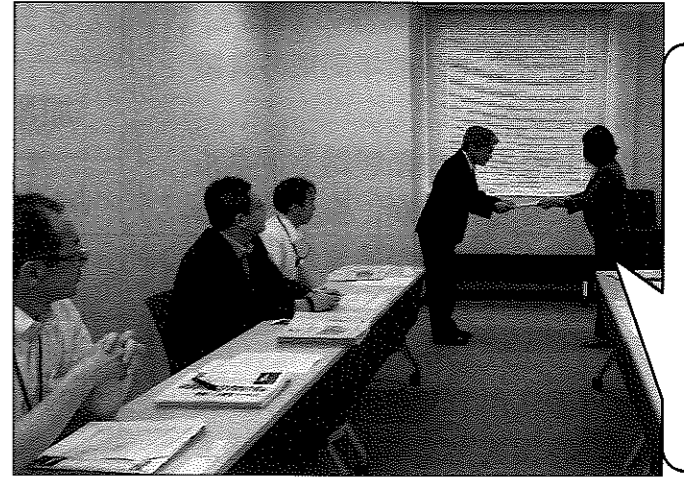
一人親方は、自己防衛するしかない！

建設現場の働き手の高齢化が進み、労働災害のリスクが高まるなかで、企業などでは労災リスクを減らす対策に乗り出しています。しかし、一人親方は、自ら体調をチェックし、自分の身体の状態を把握して仕事をするしかありません。一人親方労災の加入はもちろん、定期的な健康診断、転倒予防体操、転倒予防知識の学習、ヘルメットや作業服の着用など、日頃から安全対策に意識的に取り組むことが重要です。自分は大丈夫という過信が一番危険です。身体の衰えや予防の大事さを自覚して仕事に取り組みしましょう。

公共工事設計労務単価引き上げを末端労働者にまで反映を！

7月からダンブキャラバンスタート！北陸、中部、近畿の各地方整備局と交渉

7月から、恒例のダンブキャラバンがスタートしました。今年には北陸、中部(東海ダンブ支部と合同実施)、近畿(関西プロックのダンブ支部と合同実施)の各地方整備局のほか、北陸信越運輸局、石川県土木部監理課(建交労石川県本部と合同実施)などと交渉を行う計画です。政府は、公共工事の設計労務単価の7年連続引き上げ、社会保険への加入促進措置など、ダンブ・建設労働者にとって前向きな政策を推進しています。しかし、問題なのはこれらの国の政策が重層下請構造の中で骨抜きにされてしまっていることです。今回のキャラバンでは、国の政策が各地方自治体、ゼネコン、下請建設業者に徹底され、末端のダンブ・建設労働者の労働条件改善につながるような具体策を求めていく考えです。



北陸地整の担当者に要請書を手渡す久保浩美書記長

7月10日、久保浩美書記長と中本誠治書記長が北陸地方整備局の担当者と交渉しました。組合からは「国は公共工事に就労する労働者の社会保険加入促進を進めているが、この方針を誤解し、協会けんぽや厚生年金に加入しないと就労できないと認識している元請や下請け業者がいる」と説明。一人親方は社会保険適用外なので「国民健康保険(建設国保)」と国民年金加入でよいことを周知徹底してほしい」と訴え、北陸地整の担当者も「問題ないことを元請等に周知徹底する」と答えました。

一人親方は国保、国民年金加入で問題なし

業種を超えて、地域のなかまと交流

～北信越フェスタ in 妙高を初開催しました～

新潟県、富山県、長野県、石川県の各県本部で構成する北信越地方協議会が主催する「北信越フェスタ in 妙高」が7月6～7日、新潟県の妙高温泉「かわら亭」で開かれ、労職、ダンブ、鉄道、トラック、学童、事業団など業種を超えた約30人の仲間が集まり、交流しました。北陸ダンブ支部からは、加南分会の家出敬義さんと専従の久保浩美書記長が参加しました。

家出さんは「建交労という労働組合がどういう組織なのか、フェスタに参加して勉強になりました。他の業種の方たちとも交流でき、どの業種も労働の大変さと低賃金、後継者不足に悩みつつも、行政交渉などで頑張っていることもわかりました」と感想を述べました。



夏の思い出 募集！

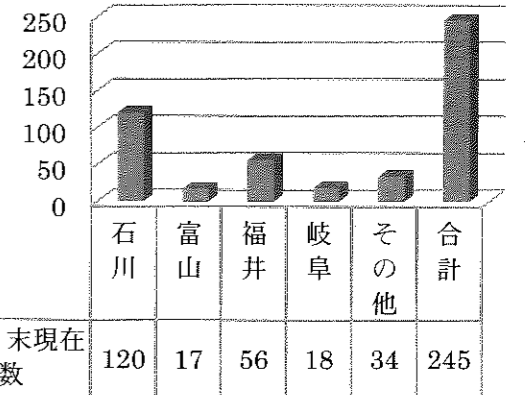
組合員の皆さんはもう、夏のレジャー計画は立てられましたか？家族旅行や趣味、イベントなど、組合ニュースで紹介する夏の楽しい思い出を募集します。

スマホなどで撮った写真に、お名前、簡単なコメントや日時、場所などを付けて、8月20日(火)までに、下記のメールアドレスまで送ってください。皆さんの投稿をお待ちしています！

hokuriku-d@forest.ocn.ne.jp

6月末の組合員数 245人

各分会などの組合員数を見直したところ、現勢に誤りがあることが判明しました。改めて、この令和元年6月末の数字を起点に増減を報告していくことにします。



令和元年6月末現在
組合員数

一人はみんなのために みんなは一人のために

ダンブ！ 土木建設 の仲間

全労連・全日本建設交通一般労働組合
石川県本部 北陸ダンブ支部
金沢市木越町七七二
☎ (076) 257-4885
FAX (076) 257-4886

岐阜分会組合員17名が参加!

第6回交通安全講習会を開催

岐阜分会は7月14日、第6回交通安全講習会を関市文化会館で開きました。毎回、高い出席率の岐阜分会ですが、今回も分会組合員18名中、17名が参加しました。

山田信二岐阜分会委員長によるあいさつで始まり、岐阜県警関係警察署の方による交通安全講習が行われました。DVD上映で、実際の事例で交通事故による被害者家族が事故後も長く苦しん



岐阜分会の交通安全講習会の様子

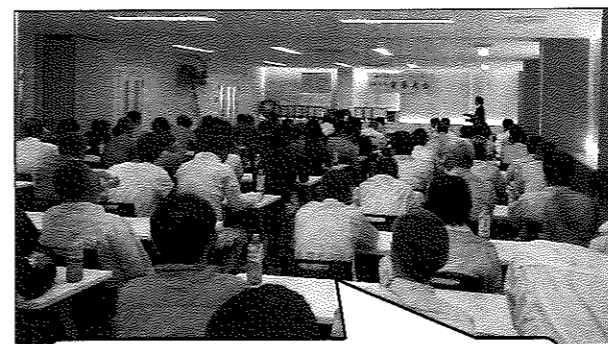
でいる実態が紹介されました。講習会後には、分会の定期総会を兼ねた懇親会が開かれ、田中清明岐阜分会書記長から、前年度の活動報告と会計報告がありました。

また、支部書記局から、今後、岐阜エリアで就労交渉を進める予定の工事が複数あることを報告しました。

TPO主催の交通安全大会に金沢分会組合員が参加

月浦トンネル工事の下請業者でもある(株)ティー・ピー・オーが主催する交通安全大会が7月13日、同社で開かれました。ティー・ピー・オーの取引先、関係者など約120人が参加しており、北陸ダンブ支部からは、月浦トンネルに就労する金沢分会組合員の寺田充さんと高梨文成さんが出席しました。

沖野工事部長が昨年度の反省と、今年度の安全目標を説明されました。その後、佐藤工業の安全環境部長による「ヒューマンエラーと安全管理」の講義があり



多くの参加者を集めた交通安全大会。同社の業績も好調とのこと。

ました。また、各関係先から、決意宣言もありました。

交通安全講習会後の懇親会であいさつする山田信二岐阜分会委員長

2019年上半期就労台数が大幅増、7000台に迫る!

(2019年1~6月の就労状況)

分会	就労のべ台数	工事件数
加南	3175 (1980)	5 (6)
金沢	1635 (580)	2 (3)
嶺北	1285 (838)	7 (5)
岐阜	600 (188)	1 (3)
高岡	173 (0)	2 (0)
合計	6868 (3586)	17 (17)

※ ()内は前年の数字

※就労のべ台数は8時間換算

2019年上半期の組合就労のダンブのべ台数は、前年同期比91.5%増の6868台でした。すべての分会で、前年同期の実績を上回りました。

加南は引き続き、北陸新幹線トンネル工事で大幅増になったほか、金沢分会も、月浦トンネルなどの就労が始まり、大きく増えました。嶺北分会は、冠山峠第2トンネルが押し上げました。

岐阜分会は長良川の河道掘削工事、高岡分会は平阿尾線道路工事の就労が始まり、前年を上回ることができました。

組合員の自覚持ち就労に取り組もう

就労が多く、仕事が安定している時期に計画的に資金をプールし、ダンブの整

備費、いざのときの生活資金を確保しておきましょう。生活を安定させることが、ゆとりを持って仕事できることにつながり、交通安全社会を実現する基盤となります。



石川、福井を中心に大型公共工事が続き、組合の就労も拡大しています(写真は月浦トンネルの就労現場・金沢分会)

交通安全推進団体の証 オレンジプレート掲げて仕事をしよう



オレンジプレートが労災保険加入者の証明になります。仕事には必ず掲示しましょう。

白ナンバー
子どもの頃、自分が犯罪者になってしまわないか、漠然とした不安を持って、いた。殺人や窃盗、傷害事件などの報道を見て、自分はそのような人にならないか、どうして、言い切ることができるだろうか、と感じていた▼周囲の人たちは、子どもの虐待死など痛ましい事件が報道されると「なんでそんなバカげたことをするのか」「ひどい人間もいるもんや」と口々に言う。でも、そんな光景に、大人になった今でも、何とも言えない違和感を覚える。子どもを殺したり、ケガをさせるまでいかに虐待と紙一重のことをやっていないのだろうか、と。「自分は大丈夫」「自分は虐待じゃなく、しつけ」って、何を根拠に?▼テレビで報道される犯人はいつのまにか、私たちとは異質の特別な人になってしまっている。でも、多くの犯人が、「自分は大丈夫」と思っていた普通の人だったのではないだろうか。「ひどい人間が世の中にはいるもんや」と言っていた人たちの一人だったのではないだろうか▼殺人犯や子どもを虐待した親を擁護するつもりはない。しかし、ある日突然、自分が加害者になって、人生が暗転してしまう可能性があることを心に留めておく必要はないだろうか。ちょっとした不注意で、車が保育園児の列に突っ込んで、普通の人に加害者になることもあるのだから。「バカな運転を」と他人事として見るのではなく、もしあれが自分だったらと考えると、車の運転や普段の発言、行動も慎重になる気がする。

組合事務所
お盆休みのお知らせ
8月10~18日まで、組合事務所はお盆休みになります。緊急の場合は、書局専従の携帯080-6350-9037(久保)にご連絡ください。